

普及活動情勢報告（令和8年5月分）

中央西農業振興センター農業改良普及課

労働力不足の課題解決に向けて ～県職員向けシシトウ収穫体験会の開催～



4月26日、JA、土佐市、農業改良普及課で連携して県職員向けのシシトウ収穫体験会を開催し、4名が収穫作業を体験しました。

今回の収穫体験会は、今年2月に開催したピーマン収穫体験会で、ピーマン以外にも体験してみたいという声を受けて企画しました。

農業改良普及課は、参加者の収穫作業をサポートしました。

参加者からは、「収穫作業は楽しい」といった声が聞かれ、体験会終了後には1名が実際に従事しています。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力して、労働力の確保を進めていきます。

放置竹林の有効活用に向けて ～竹チップの作成～



5月12日、いの町の八代堆肥センターで役場3名、農業改良普及課2名が参加し、放置竹林の竹材の有効活用を目的として竹チップを作成しました。

令和6年には、竹チップを用いた馬糞堆肥も試作しており、今年度は、ショウガでの施用試験を実施しています。また、ショウガで稲わら、ケイントップの代替資材としての活用も計画しています。

農業改良普及課は、今後も関係機関と連携して地域資源の有効活用に向けて支援します。

水稻生産の効率化に向けて ～直播栽培の実証～



5月13日、いの町柳野地区でドローン、動力散布機による直播を行い、農家3名、関係機関職員4名が参加しました。

普及課は、農家への実証内容の提案や当日の作業内容の確認等を行いました。作業時間は、ドローン、動力散布機ともに、10aあたり3分程度で、育苗及び移植にかかる時間を大きく短縮することができました。

実証農家からは「育苗作業が無くなるのはかなり楽になり、実証が上手くいけば栽培面積を増やしたい」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、関係機関と連携して、生育や収量の調査を行い、直播技術の普及性を検証していきます。